

明治維新後日本は、近代国家への道を歩みはじめ、戦争・景気の変動など様々な社会情勢の変化を経験しながら、世界有数の経済大国に成長しました。この過程の中で、景観的に大きく変化したものの一つに都市があります。

今回の所蔵資料展示は、平成13年度、14年度に開催した「地図で見る都市の変遷」に続くものです。県内の都市として、大垣市、可児市、瑞浪市を、県外の都市として神戸市及び東京の多摩地域を取り上げました。

地形図を時系列的に展示し、社会環境などの変化に伴い農地や住宅地などの土地利用が変化して

きた各都市の変遷の様子を理解していただけるように配慮しました。また、県内の都市については新旧の空中写真（米軍が終戦直後に撮影したものと近年国土地理院が撮影したもの）も展示し、地形図と併せて楽しんでいただけるよう工夫しました。

展示した地形図は、県外の都市については市域が分断されないよう編集されたものを、県内の大垣市及び瑞浪市については国土地理院の許可を得て、岐阜県情報工房で複製・編集したものを使用しました。

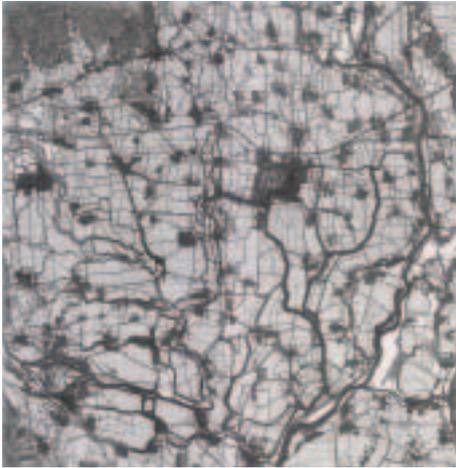


図 「明治26～27(1893～94)年頃の大垣市」

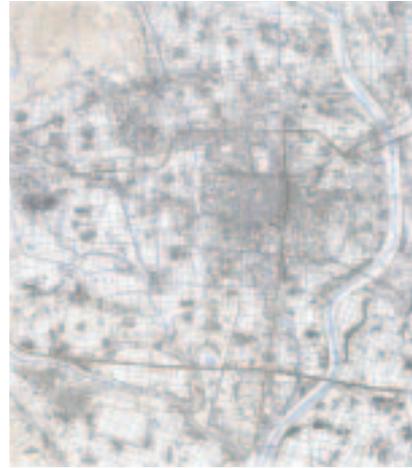


図 「平成10～14(1998～2002)年頃の大垣市」



写真 米軍撮影空中写真  
昭和24(1949)年撮影(R1132-26)

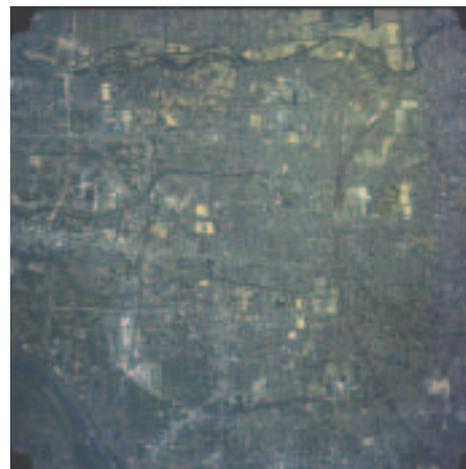


写真 国土地理院撮影空中写真  
平成8(1996)年(CCB96-1X C-06-17)

図、はそれぞれ、陸地測量部（国土地理院の前身）が発行した1/2万地形図、国土地理院発行の1/2.5万地形図を当館で編集したものです。時を経るにつれて、西濃地方の中心都市である大垣市の拡大と市街地周辺地域の変遷、交通網や水路の整備や輪中地域の変容などが分かります。

写真、からは、第2次世界大戦直後と現代の大垣市をより視覚的に捉えることができます。このように地形図と空中写真を組み合わせることで展示したことにより、大垣市他の都市の変遷を楽しんでいただけたと思います。